

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 6 部門第 1 区分
【発行日】平成 18 年 12 月 21 日 (2006.12.21)

【公表番号】特表 2005-528593(P2005-528593A)
【公表日】平成 17 年 9 月 22 日 (2005.9.22)
【年通号数】公開・登録公報 2005-037
【出願番号】特願 2003-582529(P2003-582529)
【国際特許分類】

G 0 1 N 21/896 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 21/896

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 10 月 31 日 (2006.10.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 2】

別の実施形態が、図 3 に示されている。画像化システム 1 0 は、透明媒体 3 2 の光学特性を画像化するように設定される。この場合には、点光源 3 4 は、すべての光線が平行に反射されるように収束鏡 3 8 に対して位置決めされる。これはテレセントリック画像化と呼ばれる。点光源は、ビームスプリッタ 3 6 を介して光を放射する。光は、平面鏡 4 8 によって透過され、収束鏡 3 8 に向けられる。収束鏡 3 8 は、画像化領域 4 0 を形成するために、透明媒体 3 2 を通って光を平行に反射する。光は、第 2 の平面鏡 5 0 から反射され、透明媒体 3 2 を透過し、収束鏡 3 8 および平面鏡 4 8 からレンズ 4 2 へ反射される。レンズ 4 2 は、カメラ 4 6 を備えた検出器アレイ 4 4 において、次に電気信号に変換される光学画像を提供する。図 3 は、放物面鏡の焦点に配置されたとき、光線が正確に同一の状態でウェブに当たり、平面鏡から反射され、再び画像化レンズの中心の 1 点に収束する収束鏡に戻るように進む状態を具体的に示している。

【手続補正 2】

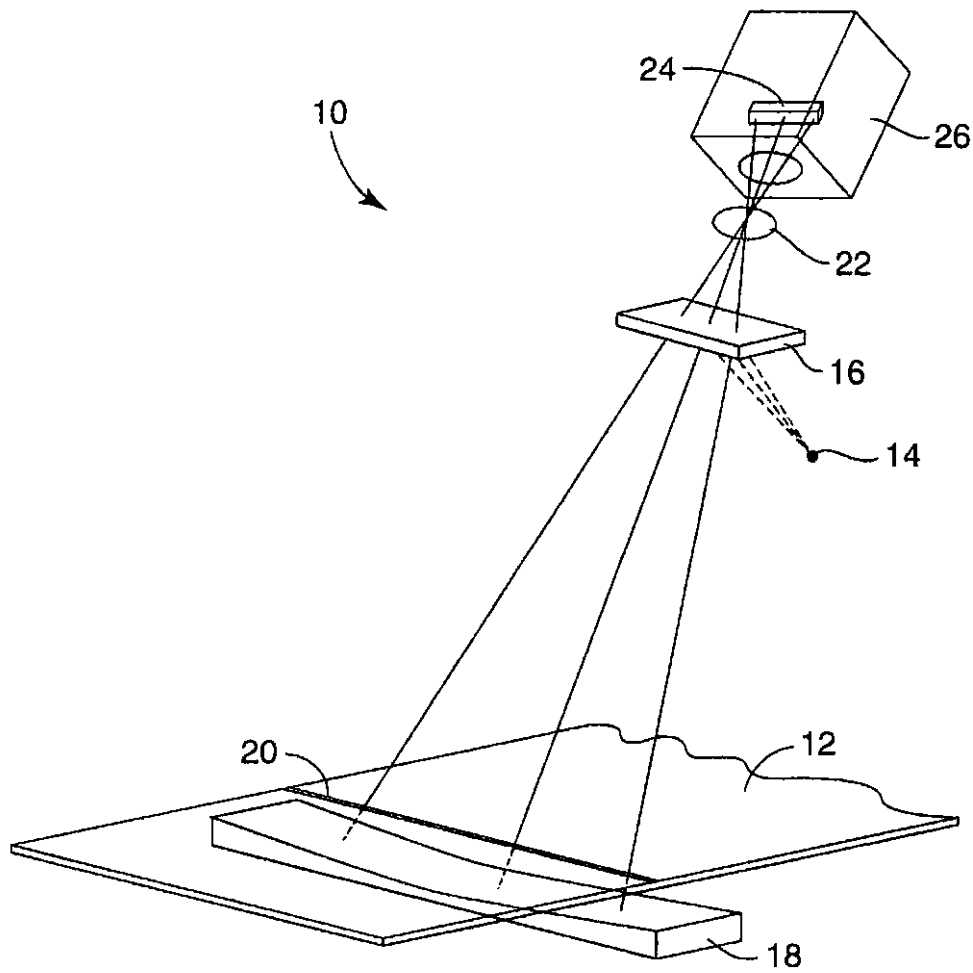
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 】

**FIG. 1**

【 手続補正 3 】

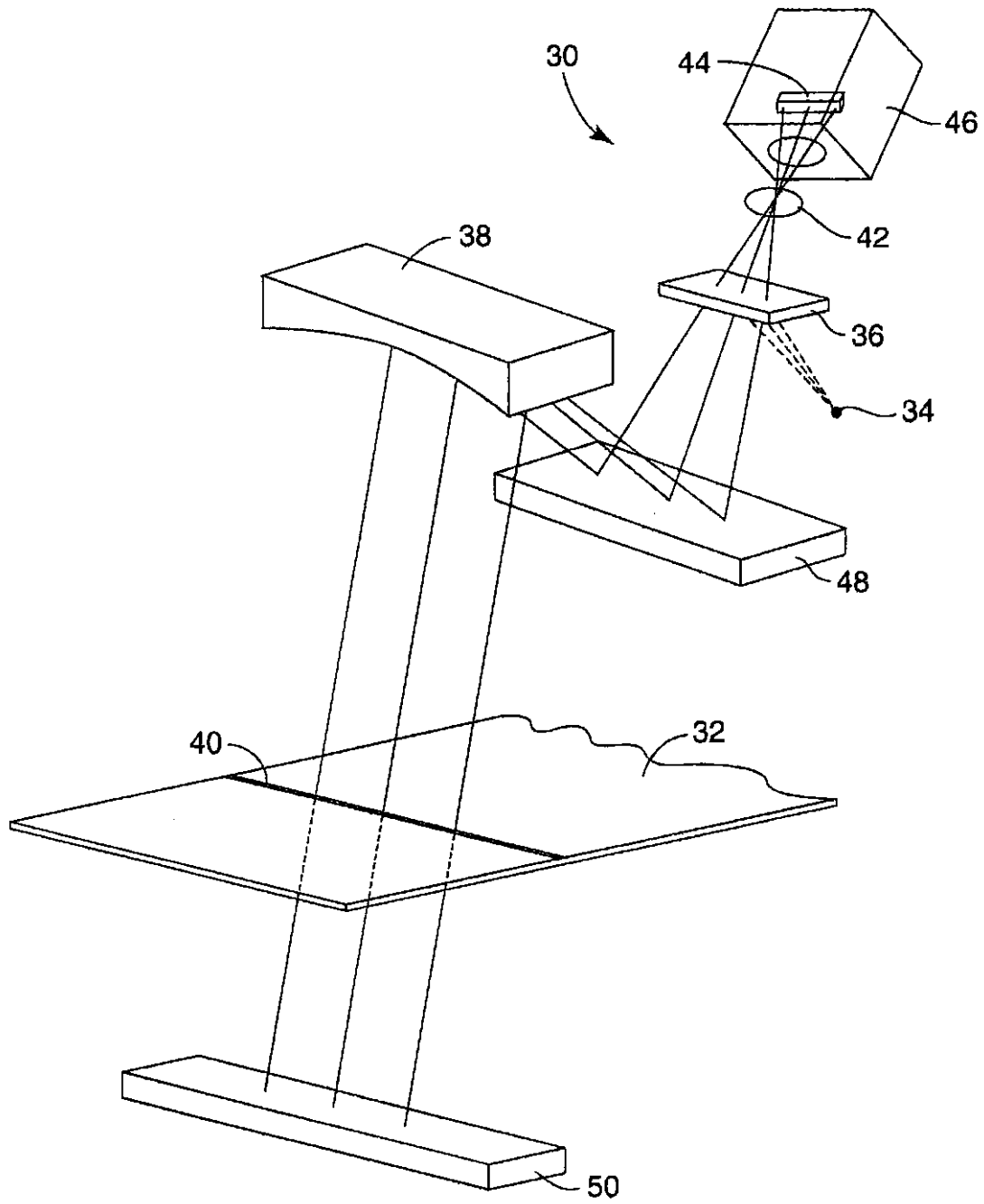
【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 図 3

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 図 3 】

**FIG. 3**